

AIレポート添削サービス: ビフォー・アフター事例

ビフォー（修正前）

この研究レポートでは、最近注目されている生成AIについて考えてみたいと思います。生成AIはすごく便利で、いろんなことに使えるって言われてますが、教育現場でどう使われているのかはまだよくわかってません。そこで、教育分野での利用例とその効果、課題についてまとめました。

まず、文献調査として関連する記事やブログを集めて読みました、次に、オンラインアンケートを実施して、教師や学生に生成AIを使った経験があるかどうか、どんな場面で使ったか、何が良かったか、困ったことはなかったかなどを聞きました、そして、実際に授業で生成AIを使ってみる実験もやりました、授業準備の時間や生徒の理解度、参加度を記録し、比較しました。

その結果として、生成AIを使うと授業準備の時間が短縮できた、文章作成の支援ありがたい、といったポジティブな声が多く聞かれました、一方で、生成AIが出した回答の中には間違いや曖昧な表現もあり、そのまま使うと誤解を生む可能性があることがわかりました。また、生成AIに頼りすぎることによって自分で考える力が育たないんじゃないか、情報の信憑性が気になる、などの懸念も挙がっていました。

これらの結果から、生成AIを教育現場で使うときには、教師の適切なチェックや使い方のルール作りが必要だと考えられました。生成AIの回答を鵜呑みにせず、あくまで参考として活用する姿勢が大事です。さらに、学生自身が生成AIをうまく使いこなしつつ、自分の考えを深められるような指導方法を取り入れることが求められます。

今後は、いろんな教科や学習段階で生成AIを使ったときの効果を検証するとともに、教育目標に応じた活用指針の策定が必要です。また、生成AIの性能向上や倫理的な課題についても引き続き議論していくことが重要だと思いました。

アフター（修正後）

本研究では、**近年注目されている生成AIの教育活用について考察する**。生成AIは**非常に便利で、多様な用途に利用できる**と評価されているが、教育現場での具体的な活用状況は十分に把握されていない。本稿では、教育分野における利用例と効果、課題を**整理した**[1]。

まず、関連する**論文や報告書**を収集して**文献レビュー**を行った。次に、**教師と学生を対象とした**オンラインアンケートを実施し、生成AIの**利用経験、利用場面、利点、課題**を聞き取った。さらに、授業で生成AIを**活用する実験**を行い、授業準備時間や**学習者の理解度・参加度**を**測定して比較した**。

その結果、生成AIの活用によって授業準備時間の短縮や**文章作成支援**などの利点が報告された。一方、生成AIの回答には誤りや曖昧な表現が含まれる場合があり、そのまま使用すると**誤解を招く**可能性があることが明らかになった。また、生成AIへの過度な依存が**学習者の思考力の低下**につながる懸念や、情報の**信頼性**に対する不安も指摘された[2]。

これらの結果から、教育現場で生成AIを活用する際には、教師による適切な確認と運用ルールの整備が不可欠である。生成AIの出力を**そのまま採用するのではなく**、参考資料として活用し、学習者が自ら考えを深めるための**指導法**を導入する必要がある。

今後は、**さまざまな教科や学習段階**における生成AIの効果を検証し、教育目標に応じた**活用指針を策定すること**が求められる。加えて、生成AIの性能向上と倫理的課題についての**継続的な議論**も重要である[1][2]。

参考文献

[1] AI経営総合研究所「『コピペOK』 ChatGPT文章校正プロンプト例 | 誤字脱字・文体統一を自動化」（2025年）

[2] VM出版スクール「文章の書き方 - AIを使った文章添削、赤字修正の事例トップ5」（2023年）